

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675200168号
法人名	特定非営利活動法人 ケアネットあいら
事業所名	グループホーム 明倫館
所在地	鹿児島県始良市加治木町木田1133番地 (電話)0995-62-5650
自己評価作成日	平成22年4月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型のサービスとしてグループホームは、まず地域の方々に施設の存在を知って頂き、気軽に訪ねて来て頂けるように掲示板を設置している。そこにおいて例えば認知症サポーターの養成講座の開設のお知らせを行い、地区の公民館にて実施するなど地域の方の参加を頂いている。このような出会いが地域との架け橋になったり、困っていることがあったら、気軽に相談していただけるような関係が築けたらとの想いで活動を行っている。そうして地域の方とグループホームが共に助け合って、地域の方が住み慣れた所でいつまでも暮らしていけるように、お手伝いできたらと考えている。このグループホームの特徴として、どの居室からもすぐに避難が出来るようにと周囲にテラスを設置することで、緊急時への対応を行っている。福祉施設の職場環境のひとつである多くの女性が勤務しているとの特色に配慮し、勤務時間をやりくりするなどして保育園等に迎えに行ってもらうなど、職員自身も心身共に健康でなければ、良いお世話はできないとの考えの下で可能な限り勤務希望を勤務表に反映すること。疾病の際は検査費用を一部負担するなど、新たに職員の互助会を発足して、旅行の際、職員のみならず同伴の子供さんにも一部費用を負担することも行うなどして、職員の福利厚生充実を図るなど、職場環境を整えることで職員の定着を目指しています。また昨年度より年間標語を掲げ、今年度は「より一歩利用者様と身近に」にて理事長はじめ全職員が各自この標語の基、利用者さま個々の訴えに耳を傾け、希望の実現に努力して行っているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは近くに病院や学校、公共施設のある静かな住宅地に位置している。ホーム前の掲示板は地域・ホームの情報発信の役目をなし、気軽に相談、話し合いの出来る活動につながっている。

職員の健康も考え、働きやすい職場環境作りに力を入れ、離職の軽減にもつながっている。2ユニット全職員が全利用者、家族に関わり、夜勤帯も2名で業務にあたるので職員の精神的負担軽減にもなっている。利用者の楽しみの一つである食事時にはテレビを消して食事に集中し、会話しながらの支援をしている。災害対策も旧ホームの生活から得た教訓を活かし、各居室を掃き出し窓、テラス付きにして、すぐ外に搬出できる作りになっている。誰が救助にきてても分かるように居室の出入りに利用者の身体状況も明記されている。地域住民の協力も日頃より話し合いができていて安全安心なホームである。

新年度より9つの委員会を設け、職員の意識向上につなげている。今回からホーム便りも運営者に代わり、お便り委員会で担当し、記念すべき「60号ホーム便り」が発行され評判である。年間標語「より一歩利用者様と身近に」を掲げ、全職員が委員会に属し、モチベーションを高め、また、利用者の笑顔、生活機能の向上・改善が職員の励みになっている。運営者、管理者はサービスの質向上を図る為に、段階に応じた研修受講の機会を多く提供し、資格取得に向けた支援にも力を入れ、職員のスキルアップを図っている。管理者、職員は高齢者生活環境改善の普及啓発広報活動に取り組み、地域の保健福祉の向上に寄与している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
. 理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域と共にあなたを支えます」を基本理念として謳い、毎朝申し送り時、職員全員で復唱することで確認、共有している。	職員全員でつくりあげた理念を玄関、ホールに掲示している。2ユニット合同の申し送り時に復唱、確認・共有している。年間標語も掲げ、1年間の目標にし、実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、定期総会にも出席し、年間事業計画を説明、施設の掲示板にもその都度毎の行事をお知らせするなどしている。散歩の時などは挨拶をかわしている。	自治会の定期総会に出席、ホームの年間計画なども説明し、理解・協力をもらっている。地域の行事にも積極的に参加している。駐車場横の掲示板はホーム行事の案内や相談・問い合わせなど気軽に対応するホームとして情報発信の役割を担っている。	
3		事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	介護劇を入れるなどの工夫を行い認知症サポーター養成講座（昨年度3回実施）を地域の公民館で開くなどの活動を行っている。掲示板には施設の様子を知らせている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、地域（議員、民生委員、自治会）の代表、行政関係者（介護保険担当者）の方に参加を頂いている。評価の結果報告や状況報告して、意見等を頂き日々のケアに活かしている。	定期的に開催されている。事業所の報告のみでなく参加者からの意見を活かし職員紹介をホーム便りに掲載したり、職員定着についての意見をもらったり、会議内容がサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と適宜連絡を取り、相談・助言を頂いている。行政主催の研修会にも参加している。管理者は行政連絡員・自治会長との役を活用するなどして、密に連絡を取り合っている。	管理者は行政連絡委員であるため、担当窓口へ出向いたり、電話により地域包括支援センターとの関わりについて積極的に相談や情報交換を行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設として、身体拘束排除宣言を行い、掲示しコールマット、センサー等を活用するなどして安全面に配慮、日中は玄関等鍵を掛けずに、人の出入りが自由に出来るようしている。また、安易に身体拘束をしないケアの方法を話し合っている。	安全面に配慮し、コールマット、センサーを居室別に取り付け、利用者の状態に応じて対応、非常時にもすぐ出られるよう、掃きだし窓になっている。地域の理解・協力をもらって利用者の安全で自由な暮らしを確保している。身体拘束についての勉強会、意見交換会をもち、職員全員が身体拘束ゼロを目指し、実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送り時、利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）を職員全員で黙読することにおいて虐待行為についての確認を行い、利用者が気持ち良く生活して頂けるようケアを心掛けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方に成年後見制度を利用されている方もおられ、またその他の利用者のご家族にも、管理者より、成年後見制度についての活用についてアドバイスを行うなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約書・重要事項について十分な説明を行い、理解を図っている。退所時も話し合いを持ち、関係機関との連携を取り、責任を持って行き先を決めるまでの援助を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が参加して頂ける行事を多く設け、この機会を通じて介護職員との対話の時間を作っている。面会時にも希望・要望を聞いている。利用者には普段から要望はないか聞いて、特に食事面には反映している。</p>	<p>年5回家族会を開催、8割の家族が出席している。家族のみの場を提供し意見要望が出やすい環境を作っている。出された意見はミーティングや運営推進会議で話し合い改善に至っている。第三者委員を置いて家族にも説明している。面会時にも意見・要望を伺うようにしている。利用者にはいくつか提案を出し、意見・要望を引き出せるよう工夫している。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、必要に応じて個別面談等を実施して、またBS法を活用するなどして、自由に率直に意見が言えるように工夫し、ケアに反映している。</p>	<p>利用者入居に関しても職員意見を反映させている。職員は年間目標を掲げ、無記名で意見を出している。9つの委員会を設け、全職員が意識向上に向け取り組んでいる。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>保育園の送り迎え等に配慮したり、勤務においては十分に休みの希望を聞いている。また資格を得た際に報奨金を出すなどして向上心を持って働けるよう行っている。長期パート職員を正職員に登用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務の調整など行い、多くの研修会に多数参加出来るようにしている。また、研修費の負担を行っている。適時、施設内でも研修をしている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修への参加を通じて、他のグループホームとの情報・意見交換を行いサービスの向上に努めている。年2回当施設が窓口となり町内のグループホームの食事会を開いて交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設利用前に必ず面会を実施して、本人、ご家族との触れ合いを通じてより、不安なく利用が行えるようにしている。また必要に応じて利用前に数回の面会を実施することもある。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族のみならず、関係者（担当ケアマネージャー等）の方との面会を行い、入所時の要望等を聞き、記録として残すなどして関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時の記録において、生活指導・健康管理・介護の当面の対応方法として支援を実施することとし、緊急性のサービスの必要な状況においては関係機関（他のグループホーム）と連携を行うなどして対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>自立支援を基本として、出来ることは職員と一緒にさせて頂いている。このことで職員が知らないことを教えて下さったり、共に過ごす時間が多いことで信頼関係が築かれている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>年度初めに年間事業計画を送付して、可能な限り施設の行事に参加して頂く体制を整え、面会時等職員との対話を行い関係作りを得て、行事への家族の自主的援助へと結びついている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域で行われる催し（小学校のマラソン大会、加音ホールの催しなど）に参加したり、近くの公園で花見をしたり、出来る範囲で馴染みの場所にお連れするなどしている。</p>	<p>職員は利用者の思いに沿えられるように自宅訪問やお墓参りに連れて行ったり、行きつけの美容院の送迎、買い物に同行している。地域の友人、知人の訪問もある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>共に楽しく過ごす機会を多く設けることなど、常に利用者同士の関係には気を配っている。もめたり孤立している時は、職員が間に入って話を聞いたり、位置関係に配慮して良好な関係が保たれるようにしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用 契約 が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院により退所された方はお見舞いに行ったり、再入所の希望の際は配慮を行っている。その後の経過についてはフォローしている。亡くなられた時は、通夜・告別式に列席するなどしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>自分の思いを伝えることが難しい方もおられるが、毎日の関わりや家族との話し合い等を通して、本人本位に検討を行っている。</p>	<p>本人のこれまでの生活スタイルを重視し、本人、家族、ケアマネージャーからの情報を得て毎日の関わりの中で職員は工夫しながら本人本意に検討している。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用前、自宅を訪問するなど、これまでの生活状況等については、本人・家族から聞き取り、担当ケアマネージャー等関係者からの情報も得ている。利用後も自宅訪問するなどしている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>本人のこれまでの生活スタイルを重視し、本人の意思を尊重して、一日を過ごして頂いている。絵が上手な方、編み物が得意な方など、出来ることに注目して支援を行っている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・医師・スタッフとの意見を聞いてプランを作成している。利用者の心身に変化が生じた際は再アセスメントを行ってプランを作成している。モニタリングは一ヶ月毎に実施している。</p>	<p>関係者の意見を聞き本人・家族の希望や意向を基にケアマネージャーと職員が話し合い介護計画を作成している。月1回のモニタリング、評価の記録を基に状態・生活機能の確認をし、きめ細かいサービスの提供を図っている。家族宅訪問や買い物、墓参りなど利用者主体の暮らしを反映した介護計画になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の状況をケア記録等に記入し、変化が生じた時は連絡帳等にも記入して、利用者の変化について職員間で共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族が遠方にいる方、高齢の方等家族の状況に配慮し、通院の送迎・付き添い・入院中の洗濯・衣服の準備・面会などの支援を行っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>年間行事等に保育園児の定期的参加やボランティアの参加がある。地域の自治会活動に参加して地域資源の一端を担い、利用者の方により良く支援が出来るよう活動している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>在宅診療計画の契約を結んでおり、主治医による月二回の往診を受けている。体調不良時は、すぐ受診できる体制にある。入院が必要な場合は他病院を紹介してもらっている。</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。在宅診療計画の契約を結び、月2回の往診を受けるなど健康への支援を行っている。受診は基本的に家族同伴であるが状況に応じて通院介助も支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置していることで、介護職員はいつでも看護職員へ情報を送れる体制を取っている。また、会議等を通じて看護に対する勉強会を実施するなど看護・介護職員の関わりが出来ている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は、頻繁に面会に伺い、医師からの病状説明にも同席している。早期退院ができるように医療相談員等病院関係者との連携を取っている。また退院後の通院の際にも経過報告するなど関係づくりを行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の意向を聞き、ホームでどこまで出来るかを説明するなど納得して頂いた上で、終末に対する対応方針を決めている。直接、現在の病状を医師より説明して頂くと共にアドバイスを参考にして関係医療機関と連携を取り支援している。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針を作成し、家族の同意も得ている。職員も指針について共有し、ミーティングの中で勉強会をもち、研鑽している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護職員を配置していることを利点として、職員会議を利用するなどして研修を行っている。また、近くの施設の研修会に参加して、救急救命法を学ぶなど社会資源の活用も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年二回は実施している。また年一回夜間想定訓練を実施している。同敷地内のご家族にも非常時通報先として協力を頂いたり、自治会の会合の際にも協力をお願いしている。</p>	<p>各居室テラスから出られる設計になっていて居室の入口には利用者の身体状況が掲示してある。避難訓練を年2回実施し、夜間想定訓練も実施している。通報装置先として消防署、職員、地域住民の協力を得ている。実際に職員が駆けつけてくれる時間も把握した訓練ができている。備蓄も準備されている。職員は研修会に参加、救急救命法を学んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の申し送り時、利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）にて確認を行い、利用者が気持ち良く生活して頂けるようケア、言葉かけなどに注意している。	毎朝の申し送り時、利用者権利擁護指針確認を行い勤務している。人権意識の徹底、目立たずさりげない声掛けや対応に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	具体的に例を示すなどしたりして、思いを伝えやすいような声かけを心掛けて自己決定ができるよう働きかけている。より利用者の心に近づけるよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に、起床・食事・就寝などは、利用者一人一人のペースに合わせて行っている。しかしながら散歩・入浴は日課優先に行っていることは否めない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服選びが可能な方は、自ら行って頂いたり、職員同伴にて買い物の際選んで頂いている。女性の利用者の方は各自、起床後口紅をつけるなどおしゃれを楽しまれている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを取り入れたり、嫌いな物は他の献立に変更したり、食材の大きさ、形態も各自の状況に応じて行っている。準備・後片付けなど、声かけを行い出来ることは手伝って頂いている。	「食」は利用者の楽しみの一つであり、希望を聞いて刺身やピザ、ハンバーガーなど提供し、美味しいと評判である。家族や近隣より新鮮な食材の差し入れもあり、旬のものが摂れている。遠足時、外食も楽しんでいる。献立は栄養管理士に年2回、指導を貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスの取れた献立として一人ひとりの状態に応じた量を考えている。食事摂取は記録している。水分量には注意を払っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>研修等を通じて口腔内の清潔保持は肺炎の予防になることも理解しており、毎食後口腔ケアを実施し、状況に応じて介助している。義歯洗浄剤での洗浄も実施している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>これまでトイレで排泄されなかった利用者三名が日中トイレ使用になるなど自立に向けた支援を行っており、他の利用者も排泄パターンを考えた取り組みをしている。</p>	<p>排泄時間を詳細にチェックし、個々のパターンを把握している。全職員がオムツ使用からトイレ誘導に心がけ、効果を挙げている。オムツ使用軽減は家族の経済的負担軽減につながり、職員の励みにもなっている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎朝食時、牛乳・ヤクルトを差し上げ、おやつにバナナを頻繁に取り入れるなど水分・繊維質及び運動が不可欠であることへの理解を職員で共有している。個々の排便パターンを理解している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	原則1週間に3回午後入浴をして頂いている。お湯の好み、入浴時間は本人の意向を尊重しているが曜日・時間帯については一人一人の希望の実現には至っていない。	個浴で対応している。1ユニットではリフト浴の設備ができていて、両ユニット全利用者の状態に応じ、対応している。職員・利用者の負担も軽減し安全、快適に入浴できる。今年度は温泉利用も検討されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩・余暇活動・レクリエーション活動等を行うことで生活リズムを整えている。夜間不眠時は薬に頼らず、温かい飲み物を勧めたり、お話するなどして、心が和むようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病および薬の種類・量・処方間隔等は説明書を所持し、理解し不明な点は必ず確認するようにしている。内服薬は服用直前に本人に渡すなどし、服薬確認を実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること(調理補助・食前後の準備片づけ・洗濯物たたみなど)をして頂いて、生活の中に張り合い、役割が持てるよう、原則一日1回は外の空気に触れることで気分転換を図っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は特にケア目標として「より一歩利用者様と身近に」を掲げて、一人一人に寄り添い各担当職員が個々の希望が叶えられるよう外出支援を検討実施している。原則一日1回は戸外の空気に触れるようにと併せて実施している。	1日1回はテラスでの外気浴を楽しんでいる。体力に合わせて散歩や買い物に同行している。月1回は計画に上げ、花見や遠足など気分転換やストレス発散、5感刺激の機会として外出の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数名の利用者の方であるが、本人の希望に応じ小遣い銭を所持されておられる。特に今年度は個々の外出の際、普段所持されていない方も、お渡しして支払いをして頂く予定である。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族へ電話をかけたいあるいは様子が感じられる時は子機を使用するなど自室でゆっくりできるように等プライバシー、身体状況に配慮している。また、手紙の支援も行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・ホールには季節の花や置物を飾り、落ち着いて過ごせるよう心掛けている。トイレは悪臭がしないように換気に気をつけている。台所はオープンになっており、調理の際の匂いがホールに漂い、利用者の食欲を刺激するなどしている。</p>	<p>両ユニット間の仕切りを取り除いた広々としたリビング空間は明るく開放感がある。テレビと大きな座り心地の良いソファで利用者の会話がゆったりと時を刻んでいる。廊下をはじめとするすべての共用空間が広く、車椅子にも十分対応できる設計になっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールが広く、気の合った同士、お話しが出来たり、隅のほうに行くと、一人でゆっくりすることも出来る。各自ホール内にその人なりの居場所を持つことが出来ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、馴染みの家具や仏壇を持って来て頂いて、本人が居心地良い雰囲気作りに努めている。個人用のテレビにて自室にて好みの番組を視聴される方もおられる。	テラス付きの居室は開放感がある。ベッドのみが備え付けで、タンス、仏壇、家族の写真、テレビ、ラジオ、化粧品など持ち込まれ、利用者の個性があふれる居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが広く出来ており、車椅子の方も自力で目的地まで行けるようになっている。自室・トイレ等解らない方には目印をつけたりするなどの工夫を行っている。洗面台も握れるようにとの配慮の物を使用している。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1	ほぼ全ての利用者の
		2	利用者の2/3くらいの
		3	利用者の1/3くらいの
		4	ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1	毎日ある
		2	数日に1回程度ある
		3	たまにある
		4	ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36,37)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1	ほぼ全ての家族と
		2	家族の2/3くらいと
		3	家族の1/3くらいと
		4	ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1 ほぼ毎日のように
		2 数日に1回程度ある
		3 たまに
		4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1 大いに増えている
		2 少しずつ増えている
		3 あまり増えていない
		4 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1 ほぼ全ての職員が
		2 職員の2/3くらいが
		3 職員の1/3くらいが
		4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1 ほぼ全ての利用者が
		2 利用者の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが
		4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1 ほぼ全ての家族等が
		2 家族等の2/3くらいが
		3 家族等の1/3くらいが
		4 ほとんどいない